日本中国語学会々報　2012年6月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶……1
讃井唯允先生への名誉会員称号授与にあたって……2
支部例会実施報告　2012.1-2012.5……2
会議報告……5
全国大会および例会開催のお知らせ……10
事務局からのお願いとお知らせ……11

ご挨拶

古屋昭弘（日本中国語学会会長）

スカイツリーの完成と時を同じくして日本中国語学会の事務局が東京に移ってきました。昨年の松山での全国大会で選んでいただいた新会長として、遅ればせながら会員の皆様にご挨拶申し上げます。

前事務局の平田昌司会長・三宅登之副会長と幹事の池田巧・緑川英樹両先生の献身的なご尽力のおかげで、会員管理を始めとする体制が整い、昨年 6 月に導入されたオンライン会員情報管理システム（e-naf）も会員諸氏の積極的なご協力のもと順調に機能しています。

今期の事務局の最重要任務は、京都の事務支局（中西印刷）と密接な連携を取りつつ、この新体制をしっかりと引き継ぎ定着させていくことだと考えています。今はまだ慣れないことが多く、前事務局を質問責めにしながら匍匐前進している状況です。会員諸氏のご寛容とご支援を切にお願いする次第です。

4月１日から今日までまだ日が浅いとはいえ事務局を担当して感じたことは会員諸氏の中国語学研究あるいは学会運営への情熱です。皆様もご存知のとおり、この短い期間に早くも支部例会が２回（関東と中国）開催され、６月中には３支部で例会が予定されています。これらはみな各地の発表者・参会者の皆様や評議員各位、特に支部代表や例会世話人の方々のご努力の成果に他なりません。

メールマガジンも既に２回配信されました。学会ウェブサイトも益々充実しています。昨年秋には、学会創設 70 周年となる 2016 年を目指して辞典編纂委員会が正式に発足し、『中国語学事典』（1957-58 年）と『中国語学新辞典』（1969 年）に続く中国語学新辞典の編纂が本格的に始まっています。時には深夜にも及ぶメールのやりとりの中で、理事、大会運営委員会、『中国語学』編集委員会、ウェブリソース委員会の皆様の熱気が事務局にも強く伝わってきています。

このように頼もしい役員の皆様と一緒に、２年間しっかり頑張って「承前啓後」の役割を果たしていきたいと決意を新たにしております。どうかご協力のほどよろしくお願い申し上げます。会員の皆様のご健康とご研究の益々の発展を心よりお祈りしております。

讃井唯允先生への名誉会員称号授与にあたって

2011 年度日本中国語学会の総会において、東京都立大学名誉教授讃井唯允（さぬい ただよし）先生に名誉会員の称号が授与されました。讃井先生は，現代中国語の文法研究を中心に、中国語教育、対音資料研究などを専門分野とされてきました。その新たな知見は中国語学界に大きく寄与するものです。学術研究の先進性を重視する峻厳さとともに学習者のすみやかな理解に重きを置かれ、その進取と篤学の姿勢は、後進に大きな影響を与えました。そして長年にわたって本学会の常任理事、編集委員長、編集委員および理事として学会の運営に携わり、貢献されました。また，関東における中国語研究・中国語教育の中心的な担い手の一人として，学術の発展と教育の普及に力を注ぎ、今日の日本中国語学会関東支部の礎を築き上げた功績は顕著であるといえます。さらに 1993 年の第 43 回全国大会が東京都立大学で開かれた際には、開催校の責任担当として尽力されました。

支部例会実施報告　2012.1-2012.5

◆北海道支部例会

◇2012 年 3 月 24 日（土）北海道大学

・ 楊安娜（北海道大学・院）：“VR 了的 N”構造における “了”の生起条件について

結果補語をもつ動補構造（VR と記す）が連体修飾節になる場合,多くの場合“了”の生起が随意的である（ex. 打碎了的花瓶→打碎的花瓶）。しかし，“了”の生起が義務的な場合もある（ex. 买大了的鞋→*买大的鞋）。先行研究では“V”が表す動作･行為から最も自然に予想される結果からはずれた状態“R”がおこったものである場合には，“了”の生起が義務的であるとされているが，それではうまく説明できないものがある。本発表は発話者の事態に対する認知を，知覚的−判断的というスケールから捉え直すことより，この問題を再検討することを試みる。

・ 山田大輔（北海道大学・院）：上古漢語の語気詞“矣”の意味・機能について

上古漢語の語気詞“矣”の意味･機能に関する研究は，馬建忠（1898）以来数多く出されており，それらは内容によって，(1)「已然」という観点から説明する立場，(2)「動態」という観点から説明する立場，(3)「新情況」という観点から説明する立場，(4)「確定」という観点から説明する立場，の４つに大きく分けられる。しかしながら，“矣”の様々な用法を統一的に説明できる説はいまだ提出されていないように思われる。そこで本研究は，従来，用例の存在が指摘されるだけで，掘り下げた議論がほとんどなされてこなかった「条件文の後節末につく“矣”」や「未来を表す“將”とともに用いられる“矣”」，「命令文に用いられる“矣”」などの“矣”を検討し，“矣”の意味・機能についての仮説を提示することにする。

・ 加部勇一郎（北海道大学・専門研究員）：音で遊ぶ人々について−『鏡花縁』と『七嬉』を中心に

清代嘉慶年間の音韻学者である李汝珍と許桂林は,それぞれじしんの学問的成果を織り込んだ小説(『鏡花縁』と『七嬉』)を残している。それらはいずれも,書き手の衒学趣味が現われた作品と見なされがちであるが,その営みはまた,高度に抽象的な音韻学を一般の人々に解説するような,教育的実践の試みとも言い得るものなのである。本発表では,二人の音韻学者がどのように自作に音韻学的知識を織り込んだのかについて,小説および周辺の筆記の記述から読み解き,「空谷伝声」「双声畳韻」などのキーワードを軸にしながら,当時の言語遊戯の一側面について,文化史的な角度から述べる。

・ 熊娟(北海道大学・JSPS 外国人特別研究員):从《佛说盂兰盆经》说起

《佛说盂兰盆经》在《大正新修大藏经》中题名为西晋竺法护译,对于这一题署学界存有异议。通过考察“罪障”、“邪魔”、“自恣日”、“四道果”、“释然”、“年年”、“床敷”、“三公”、“为可尔不”这些语言现象的使用情况,再结合文献记载和经文内容这些旁证,得出结论:《佛说盂兰盆经》应该不是西晋竺法护译经,而是假借翻译佛经的形式编撰出来的疑伪经,其写作时代最早可能是东晋姚秦。在此基础上,对与该经密切相关的“盂兰盆”这个词语进行了考察。关于它的来源历代佛教学者和近现代以来的佛学辞书聚讼不已,本文认为“盂兰盆”一词并非是来自梵语的音译外来词,它根本就没有据以翻译的梵语原词存在,应该是一个地地道道的汉语词,可能是疑伪经《佛说盂兰盆经》的编撰者创造出来的。

◆関東支部例会

◇2012 年 3 月 17 日(土)早稲田大学

・ 平田昌司(京都大学):(辞典編纂委員会報告)新版『中国語学辞典』の構想

・高橋弥守彦(大東文化大学):文法体系から見る中国語の文成分

言語は一般に語素(形態素)・単語・連語・文・文組・段落・段組・文章の 8 文法単位から体系的に成り立つ。単語は自然言語の最小の文法単位であり,単語の分解と組み立てが文法学で扱う範疇である。世界のどの言語であれ,文法的に体系化されている。本発表では,世界の言語の中で,中国語の特徴の一つである名詞が述語となれ,形容詞や動詞が述語となれる以下のような言語現象を構文論の枠組み理論の観点から分析する。(1)今天立秋。(名詞が述語,高航著《认知语法与汉语转类问题》p. 202)(2)诚实才好。(形容詞が主語,同上,p. 51)(3)我们重视分析。(動詞が客語,同上,p. 51)

・ 戸内俊介(東京大学・院):上古中国語の「NP 而 VP」/「NP_1 而 N_2VP」文における“而”の意味機能

本発表が検討するのは,主に以下のような例(1)「NP 而 VP」/例(2)「NP_1 而 NP_2VP」構文における“而”である。(1)子産而死,誰其嗣之?(『左伝』襄公三十年)〔子産が死ねば,誰が子産を嗣ぐのであろう〕(2)赫赫楚國而君臨之。(『左伝』襄公十三年)〔威勢赫赫たる楚国を君が治めていた〕本発表ではこの種の“而”が接続詞というだけではなく,話し手の聞き手に対する注意喚起を表す談話マーカー的役割をも担っていることを明らかにしたい。併せて,なぜこの種の“而”が伝統的訓詁学で仮定接続詞“若/如”の意味に解釈されてきたのか(例えば『経伝釈詞』の「而訓爲如,又訓爲若」),その原因についても究明する。

・ 千野万里子(杏林大学):現代中国語に見られる近世中国語の影響について–使役・受身表現を中心に–

現代中国語の源流は,18 世紀中期に北京一帯の言語を基礎として成立した『紅楼夢』や同時代に

南京一帯の言語で書かれたとされる『儒林外史』に代表される近世中国語に求められるという。しかし,両作品には語彙や文法において現代語との共通点が多い一方で，相違点も少なくない。本発表では，使役・受身表現に焦点を当て,『紅楼夢』『儒林外史』それぞれの使役・受身表現に見られる特徴や傾向を明らかにした上で,北京出身の作家・老舎の『駱駝祥子』と南京一帯の言語を用いて書かれたとされる葉聖陶作品に見られる使役・受身表現と比較対照しながら，近世語が現代語にどのように継承されたのかについて考えたい。

・ 王海波（東京大学・院）：中国語天津市薊県方言における『没』の声調と文法化

中国語の「没」の動詞から完了相否定標識への変化は文法化と考えられる。標準語ではこの文法化に発音の変化が伴わないが,天津市薊県方言では次のような音韻的独立性の低下が伴う。標準語の/35/調音節は,薊県方言では[35]と[22]で現れる可能性がある。後に[51]が来る場合,常に[35] になる。この場合を除き，音韻的句を単位に後に声調を持つ音節が無い場合は[22]になり（e. g. 紅[22]了[0]#），有る場合は[35]になる（e. g. 紅[35]灯[55]#)。薊県方言の「没」も[35]と [22]で現れる可能性がある。後に[51]が来る場合を除き，アクセントを持つ「没」は，動詞の場合[22]であり,独立した音韻的句を為し(e. g. 没[22]#銭[22]#)，完了相否定標識の場合[35]であり，独立した音韻的句を為さない（e. g. 没[35]来[22]#)。

◇2012 年 5 月 19 日（土）日本大学

・宋亜云（北京大学／日本大学）:「现代汉语单音性质形容词的来源」

《现代汉语词典》（第五版）中，有 400 多个词同时标注了“名”和“形”或者“动”和“形”,而且“名”或“动”在前，“形”在后。本文认为，这些形容词是由名词或者动词用法转变而来的。但是转变的大致时间是在汉语史哪一时期,《现汉》没有告诉我们，学界也鲜有论述。本文择取其中 92 个单音节的性质形容词，讨论它们由名词或者动词转变为形容词的大致时间,进而为弄清现代汉语单音性质形容词的来源打下基础。本文指出，从上古汉语、中古汉语、近代汉语直至现代汉语时期，分别有一批单音节名词或者动词转变为性质形容词,它们的转变对汉语形容词词类的丰富和发展具有重要意义。

・星健一（中央大学・非）:「略語構成過程における序数の移動―二段階からなる序数の位置決定―」

既存の形式を原形とし，原形中の字が残留，消去のいずれかを選択することで構成される略語の中には，“第一实验小学”を原形とする略語“实验一小”など，構成過程で序数が移動するものがある。星健一 2010 は略語構成過程において序数の位置を決める段階は二度あることを指摘するが根拠は不十分である。本発表は，この指摘の根拠について昨年度の本学会での発表も加味しあらためて考察する。序数の移動は前方への移動，後方への移動の二種類に大別できるが,略語構成過程で両者が生じる段階を考察すると,前方への移動が後方への移動に先立って生じる想定は成り立つが逆は認められない。このことは上の指摘の根拠となりうると考えられる。

◆中国支部例会

◇2012 年 5 月 13 日（日）広島大学東千田キャンパス 207 講義室

・丁雷（広島修道大学・非）：对日本大学生汉语初学者的静态声调发音问题的探讨 ---以日本广岛修道大学一年级学生为例---

日本每年接受汉语作为第二外语教育的大学生有将近 20 万（郭春贵 2012)。在对这些学生进行汉

语语音习得研究的探索过程中,研究者发现学生对于汉语声调的准确把握要比汉语音节整体认读的难度大得多（宫本幸子 1995）。不少学生对于汉语声调学习感到一筹莫展，特别是在发音阶段，他们对于某些静态声调（第二声、第三声）的把握更是飘忽不定，偏误百出。如何帮助学生快速掌握好声调技巧，这是每到新学期面对零起点的学生时，不少教师都会遇到的难题。本研究以广岛修道大学一年级学生为调查对象,对他们的静态声调发音质量做了为期一年的追踪调查和语音数据分析。希望本研究能够为教师设置教学目标,制订教学计划和安排教学任务提供参考依据。

・侯仁锋（県立広島大学）、長谷川絢子（県立広島大学・学部生）:“一点儿”の使用実態とその日本語訳の対応関係についての一考察

“一点儿”在汉语中用得很多,翻译成日语呈一种什么状况,对应关系如何？通过使用“中日对译语料库”调查，结果发现“一点儿”的翻译分两大类，一类是“译出型”，另一类是“不译型”，而且在量上各占半壁江山。“译出型”大致可分为词汇译出和语法译出。词汇译出其译语呈多样性，多达 30 余种，如表示程度低的副词“少し”“ちょっと”“やや”“わずか”等，但有意思的是，观察到了以程度高的副词对应的情形，如“もっと”“かなり”“とても”等。语法译出观察到的有“～より（も）”“～ほうが”等。至于“不译型”，通过考察我们认为，之所以可以不译，主要是因为“一点儿”在汉语中其表意性很小,可有可无，所以译文不译无妨。

会議報告

■2012 年度第 1 回（『中国語学』第 259 号）編集委員会

日時：2012 年 3 月 20 日 13 時～17 時

場所：同志社大学今出川キャンパス内ハリス理化学館二階会議室

出席者：大西克也（委員長）、石村広、朱春躍、中川裕三、中西裕樹、三宅登之、楊凱栄（以上委員）

【議事】

1．『中国語学』259 号投稿論文について

投稿総数 20 本のうち、18 本を受理、重大な執筆要領違反が認められた 2 本を不受理とした。

各論文につき 3 名の査読者を決定した。

査読報告書の提出期限を 5 月 7 日（月）とし、5 月 19 日（土）の第 2 回編集委員会にて採否決定を行うこととした。

2. 学会奨励賞候補者について

学会奨励賞候補者を 2 名に絞り、第 2 回編集委員会に於いて候補者を選考し、理事会に推薦することとした。

3. 『中国語学』投稿規定の改訂について

会費未納者の投稿を認めないこととし、「二. 投稿条件(1)」を下記のとおり改訂し、次回理事会に提案することとした。

(1) 著者（共著の場合は筆頭著者）が 3 月 10 日（投稿受付締め切り日）時点で日本中国語学会の会員であ~~る~~り、かつ会費未納がないこと。

日本国外からの投稿論文の到着遅延を防ぐため、「三. 原稿の送付」に下記第(4)項を追加し、次回理事会に提案することとした。

(4) 日本国外から投稿する場合は，国際スピード郵便等の，追跡可能な速達航空郵便により送付すること。

4.『中国語学』259 号特集記事について

テーマを「コーパス言語学と中国語研究の現状と課題」とし、杉村博文会員（大阪大学)、徐一平氏（北京外国語大学)、陶紅印氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）に執筆を依頼した。

5. その他

投稿論文の中に「論文本体」に参考資料を付すものがあることから、執筆要領に定める「論文本体」(17 ページ以内）に含まれる内容を明確化するため、次回理事会で執筆要領の改訂を行うこととした。

■2012 年度第 2 回（『中国語学』第 259 号）編集委員会

日時：2011 年 5 月 19 日（土）13 時 30 分～17 時

場所：東京大学文学部赤門総合研究棟 701 号室

出席者：大西克也（委員長)、石村広、朱春躍、中川裕三、中西裕樹、三宅登之（以上委員）

欠席者：楊凱栄（委員、特別研究期間）

【議事】

1. 『中国語学』259 号投稿論文の採否決定について

受理した投稿論文 18 本について、査読報告書に基づき採否の判定を行い、6 本を要二次審査、12 本を不採用とした。要二次審査の 6 本は、6 月 30 日必着で修正論文の提出を求め、編集委員会に於いて二次審査を行い、掲載の可否を最終決定することとした。投稿論文総数 20 本（不受理を含む）の分野別内訳は以下の通りである（括弧内は「要二次審査」論文数)。

現代文法	11（3）
歴史文法	2（1）
方言文法	1（1）
日中対照文法	2（1）
歴史音韻	1（0）
現代音韻	1（0）
文字	2（0）

2. 学会奨励賞候補者について

奨励賞候補者 1 名を選考し、理事会に推薦することとした。

3. 『中国語学』投稿規定・執筆要領の改訂について

「執筆要領３．論文の書式と分量」の一部を下記の通り改訂し、次回理事会に提案することとした。

◇ 図表のある場合は，できあがりの紙面が A5 判となることを考慮した上で大きさを指定~~し，~~すること。なお，図表や参考資料があるばあいには，それらを含めて 17 ページ以内におさまるようにする。

4. その他

次期委員会体制及び査読担当候補者に関する意見交換を行った。

■ 大会運営委員会

委員：遠藤光暁（委員長)、遠藤雅裕、大西博子、佐々木勲人、沈力、石汝杰、竹越孝、張勤、丸尾誠、三木夏華、森宏子

［メール会議による審議］

A．組織

(1) 委員会内に審査・会場・渉外をそれぞれ扱う小グループを設けて役割分担した。

B．今年度の大会について

(1)応募要項を策定し、ホームページに掲載した。

(2)今年度の大会からワークショップを設けることとしたが、応募がなかったため、委員会から二つの部会を依頼した。応じてくださった企画者と発表者の方々に厚く御礼申し上

げる。ただし、これは呼び水としてのものであり、来年度からは公募によるものを基本としたい。

C．ワークショップについて

(1)「ワークショップ」のイメージが湧きにくいかと思われるので、ここでさしあたりの基本的な考え方を記しておきたい。これは日本言語学会や日本語学会が既に行なっている「ワークショップ」とほぼ同じ構想によるもので、約 4 人の発表者が一つのテーマのもとに関連する発表を行うものである。ただし、一般発表とは異なり、ある分野の回顧と展望といった内容も歓迎する。他言語や異分野の研究者とのコラボレーションも奨励されるので、非会員を発表者の半数以下含めることもできる。海外から招聘した研究者を囲んで、その専門と関わりのある部会を組織することも有益であろう。様々な年齢層の研究者を含む企画とともに、例えば若手だけで新興領域を論じたり、シニアが伝統的分野をきちんと継承する部会なども想定できる。いずれにしても、今後は会員諸賢の創意工夫によってこの枠組を大会において定着させ、育んでいけるよう希望している。今年は二部会だが、四部会くらいになっても受け入れられる態勢は準備しているので、来年度以降は積極的な応募をお願いしたい。

■ 辞典編集委員会

委員：平田昌司（委員長）、池田巧、大西克也、小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、三宅登之、山崎直樹、楊凱栄

第 2 回～第 7 回の委員会を下記の日程で開催し、関東・関西の両地域に分かれて『中国語学辞典』の項目選定と編纂方針の検討を継続しつつある。2011 年 12 月 10 日(岩波書店)、2012 年 1 月 9 日（京都染織会館）、1 月 29 日（岩波書店）、3 月 17 日（早稲田大学）、3 月 26 日（京都染織会館）、5 月 12 日（岩波書店）。2011 年 3 月 17 日の関東支部例会で、委員長から「新版中国語学辞典の構想」と題する経過報告をおこなった。

■ 2012 年度第 1 回理事会

日時：2012 年 5 月 20 日(日) 14 時～17 時
場所：早稲田大学文学学術院第 6 会議室
出席者：古屋昭弘（会長)、太田斎（副会長)、大西克也＊、小野秀樹、佐藤富士雄、三宅登之、依藤醇（以上理事)；鈴木慎吾（ウェブリソース委員会委員長)；楊達、千葉謙悟（以上幹事)
欠席者：楊凱栄（理事、特別研究期間)
＊編集委員会委員長を兼ねる

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・ウェブリソース委員長交代
山崎直樹（関西大）
→鈴木慎吾（大阪大）

・ウェブリソース委員増員：
石崎博志（琉球大）

・ 評議員交代
北海道支部：鈴木慶夏（釧路公立大）
→ 飯田真紀（北海道大）
東北支部：花登正宏（東北大）
→（未定）
関東支部：楊凱栄（東京大）
→伊藤 美重子（お茶の水大）
山下輝彦（慶應大）
→王亜新（東洋大）
佐藤富士雄（中央大）
→豊嶋裕子（東海大）

東海支部：鵜殿綸次（愛知県立大）
→　荒川清秀（愛知大）
関西支部：玄幸子（関西大）
→　小嶋美由紀（関西大）
太田斎（神戸市外大）
→　下地早智子（神戸市外大）
沈力　（同志社大）
→　中西裕樹（同志社大）
四国支部：増野仁（松山大）
→　秋谷裕幸（愛媛大）
九州支部：秦耕司（長崎県立大）
→　石汝傑（熊本学園大）
佐藤昭（北九州市立大）
→　千島英一（熊本大）

・ 支部代表交代

東北支部：花登正宏（東北大）
→　塚本信也（東北学院大）
関東支部：山下輝彦（慶應大）
→　平井和之（日本大）
東海支部：鵜殿綸次（愛知県立大）
→　荒川清秀（愛知大）
関西支部：岩本真理（大阪市立大）
→　張黎（大阪産業大）
四国支部：増野仁（松山大）
→　秋谷裕幸（愛媛大）
九州支部：秦耕司（長崎県立大）
→　石汝傑（熊本学園大）

1.2 会員動向（2012 年 4 月 1 日現在）

・会員数：

				増減
総会員数（賛助除く）			1191 名	−59
	（内訳）	顧問	6 名	0
		名誉会員	26 名	+1
		通常会員	809 名	−35
		（ネット）	262 名	−18
		団体会員	9 名	0
		海外会員	79 名	−7
賛助会員			24 社	−4

※増減は昨年 10 月 1 日を基準とした数。

1.3 事務局の所在地について

［本部所在地］

〒162−8644　東京都新宿区戸山 1−24−1
早稲田大学文学学術院中国語中国文学研究室内　　日本中国語学会事務局

［会員関係］

〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷株式会社　学会部内
担当：国料尚子
Tel：075-415-3661　Fax：075-415-3662
E-mail：chilin@nacos.com

2. 支部例会関連

2.1 例会世話人交代

・関東支部：山下輝彦（慶応大）
→　平井和之（日本大）
・関西支部：岩本 真理（大阪市立大）
→　張黎（大阪産業大）
・九州支部：秦耕司（長崎県立大）
→　石汝傑（熊本学園大）

2.2 今年度の例会開催予定

・北海道（松江崇支部代表）：1 回
・関東（平井和之支部代表）：5 回
・北陸（大滝幸子支部代表）：2 回
・東海（丸尾誠会員）：　1 回
・関西（張黎支部代表）：　2 回
・中国（小川泰生会員）：　2 回
・九州（石汝傑支部代表）：　2 回

3. 大会運営委員会報告

遠藤委員長より次の報告があった。

(1) 2013 年度大会開催校

東京外国語大学に内定、開催校代表は三宅登之理事、開催時期は例年通り 2013 年 10 月末頃を目指すが期日の最終確定は 2013 年

4 月頃となる予定。

(2) 次期の全国大会運営委員長

運営委員の互選により竹越孝会員が次期委員長に選出された。任期は 2012 年度全国大会の翌日から 2 年間。

(3) 2012 年度大会ワークショップ企画

今年度は期限までに応募がなかったため、委員会のほうから 2 つの企画を依頼した。1 つは企画者・松江崇会員による「汉语词汇史研究的回顾与展望」で、発表者は方一新「近三十多年（1978～2011）中国内地古汉语词汇研究的回顾与展望」、松江崇「关于古汉语词汇史研究方法论的几点建议」、竹越孝「“语义场”与近代汉语词汇史研究」、铃木史已「词汇史研究与语言地理学研究」である。もう 1 つは企画者・朱春躍会員による「実験的手法による言語研究およびその教育への応用－中国語・日本語・英語を中心として」で、発表者は朱春躍「MRI や音響分析の手法による音声研究と中国語教育への応用」、林良子「視覚フィードバックによる外国語音声習得研究とＣＡＬＬ教材の開発－日本語・英語を中心に」、孟子敏「命令文・疑問文についての ERP を用いた脳波実験研究」、横川博一「実験的手法で探る統語・意味論研究と第二言語教育への応用」である。（いずれも仮題。）

4. 編集委員会報告

大西委員長より以下の諸点について報告があった。

a. 『中国語学』259 号査読結果

受理した投稿論文 18 本について、査読報告書に基づき採否の判定を行い、6 本を要二次審査、12 本を不採用とした。

b. 『中国語学』259 号特集について

テーマを「コーパス言語学と中国語研究の現状と課題」とし、杉村博文会員（大阪大学）、徐一平氏（北京外国語大学）、陶紅印氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）に執筆を依頼。

c. 学会奨励賞候補者推薦について

第 2 回編集委員会に於いて候補者を選考した。

5. ウェブリソース委員会報告

鈴木委員長より、新委員の体制（委員長および石崎・澤田・山崎の 3 委員）の紹介のあと、以下のことについて報告があった。

a. 通常業務のメールマガジンの配信（月 1 回）と Facebook について。
b. ウェブサイト管理体制の変更　更新担当者の変更、各種管理パスワードのバックアップ体制。
c. 事務局移転に関する業務　理事会メーリングリストについて。
d. 支部例会の案内メールの送付について。現段階で支部例会の広報媒体は葉書、UALS（言語系学会連合）カレンダー、Facebook、ウェブサイト。
e. 『中国語学』の電子化事業 JST の電子化で漏れた記事の扱い。

6. 辞典編纂委員会

平田委員長からの書面による報告（上掲）があり、委員でもある三宅理事より口頭による補充説明があった。

【審議事項】

1. 学会奨励賞の授賞について

・受賞者を編集委員会原案どおり承認。

2. 次期大会運営委員会について

・次期委員長に竹越孝氏が就任すること、および次期の人選（2012年全国大会で半数の4人の委員を選出）について大会運営委員会に一任することを承認。

・2013 年の大会開催校については、内諾のあった東京外国語大学に依頼することを承認。

3. 『中国語学』投稿規程・執筆要領の改訂について

・以下の改訂について承認。

投稿規程二．投稿条件(1)

著者（共著の場合は筆頭著者）が 3 月 10 日（投稿受付締め切り日）時点で日本中国語学会の会員であ~~る~~り、かつ会費未納がないこと。

投稿規程三．原稿の送付　第(4)項を追加

(4) 日本国外から投稿する場合は，国際スピード郵便等の，追跡可能な速達航空郵便により送付すること。

執筆要領３．論文の書式と分量

◇ 図表のある場合は，できあがりの紙面が A5 判となることを考慮した上で大きさを指定~~し，~~すること。なお，図表や参考資料があるばあいには，それらを含めて 17 ページ以内におさまるようにする。

4. 名誉会員の推挙について

・推挙のお願いをニューズレターに掲載することを確認。

5. 科研費申請について

・昨年度申請して却下された研究成果公開促進費について今年度も再申請することが提案され了承された。科研費担当理事に小野理事が就任することを承認。

全国大会および例会開催のお知らせ

第 62 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ホームページでご案内しておりますとおり、今年度の大会は同志社大学京田辺キャンパスにて 10 月 27 日(土)～28 日(日)の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。全国大会研究発表応募申込期間は 6 月 1 日から 6 月 18 日です。5 月にお送りした会費請求文書の中でもお伝えしたとおり、今年から「日本中国語学会全国大会研究発表応募に関するご案内」「全国大会研究発表応募規定」の郵送はなくなり、応募申込もメールに一本化されました。詳しくは学会ウェブサイトでご確認ください。なお応募者は今年度分も含む会費を締め切り最終日の 6 月 18 日までに振り込むこととなっていますので、どうかご注意ください。

今年度の例会実施予定

各支部の今後の例会実施予定は次のようになっております。

北海道支部：2013 年 3 月

関東支部： 6 月 30 日（土)、9 月、12 月、2013 年 3 月

北陸支部：7 月 28 日（土)、3 月

東海支部：11 月

関西支部：6 月 10 日（日)、12 月 2 日（日）

中国支部：10 月 14 日（日）

九州支部：7 月 7 日（土)、12 月 15 日（土）

発表者、参会者ともに歓迎いたします。ただし、開催時期および回数は変更になることもございますので、ご了承ください。開催予定、申込締切、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介しております。なお、開催に関する詳細は、各支部例会担当者までお問い合わせ下さい。（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員のご推挙は、9 月 30 日までに、推薦文を添えて事務局宛にお願いいたします。なお、名誉会員号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 2012 年度会費納入のお願い

さきにお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務運営上、2012年8月末までにご入金くださるよう御協力をお願い致します。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会
口座番号：00120-2-536256

なお、これまでの会費を未納の方は請求のご案内に記載してありますので、一括してご入金下さいますようお願いします。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりましたら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意ください。なお除籍者名はニューズレター上で公表されます。

■ 名簿改定について

今年は名簿改定の年に当たっています。情報に変更の生じた会員諸氏におかれましては、ぜひ e-naf を通して今年の 8 月 30 日までに正確な情報を入力しておいて下さいますようお願い致します。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第53、55回は1,500円、第56-61回は2,000円となっております。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

井上　翔太、柯　惟惟、魏　峰皓、呉　幸芬、高　正姫、張　馳、陳　愛佳、陳　於華、陳昌柏、佟　利功、林　君穂、三井　啓吉、熊仁芳、吉田　慶子、陸　藝娜、劉　金子、呂仁梅、申　荷麗、五十嵐　太郎

■ 事務局の連絡先

事務局への郵便物は、

〒162-8644
東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院中国語中国文学研究室
日本中国語学会事務局宛

へお願い致します。また各種お問い合わせは、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会々報　2012 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒162-8644
東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院
中国語中国文学研究室内
E-mail: jimukyok@chilin.jp
URL: http://www.chilin.jp/
発行日：2012 年 6 月 1 日